

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|-----------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名 | 療育支援工房 荒江教室 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 55 | (回答者数) | 10 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) | 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 3日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。 | 平日は毎日1時間の時間を設けて、支援の振り返りや生徒さんの変化、新たな目標設定、支援方針を職員全員で話し合いをして決めている。 | ご利用が少ない生徒さんは、日々の振り返りの対象として名前が上がりにくい為、定期的な振り返りでこまめな振り返り等を意識的に行っていく。 |
| 2 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 毎日の朝礼で、生徒さんの姿の情報共有と学習の振り返りを行い、その生徒さんに合わせた支援方針の共通認識と支援方針を改めて考えたり周知している。また、その日の役割分担を確認して、送迎の漏れや、支援が薄くなるようなことが無いように徹底している。 | 共有当日に休みの職員さんには、基本議事録を見てもらって情報共有しているが、情報を早く正しく伝えるために、必要に応じて、口頭にて共有して行くことも工夫として出来ると思う。 |
| 3 | 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 生徒さんのご家庭や学校のお姿を、面談などで詳しく聞き、アセスメントを行っている。支援の中でサポートを出来ることや対策を考え、計画を作成している。また計画も保護者様にお伝えし、同意を得てサインを頂いている。 | 項目にない事であっても、伺えたことはアセスメント追記して、必要に応じて個別支援計画にも反映させていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 建物が古い作りの構造で玄関前と玄関から部屋に行くまでの2段階ずつの階段があり、バリアフリー化が難しい。 | 今は歩行が困難な生徒さんは、その場所だけ体を支えて、転倒しないような配慮をしたうえで階段の昇降をしている。段差を知らせるステッカーなどを貼り注意喚起する等工夫が出来る。 |
| 2 | 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 送迎する学校の数によっては、教室に残っている職員と生徒さんの人数が見合っていないことがある。 | 人員を増やすことと、教室にいる生徒さんの人数に見合った職員が教室に残れるように配置や送迎組を工夫していく。 |
| 3 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。 | 学校の送迎時に少し関わる機会もあるが、交流をするまでの時間を設けることは難しい。また、工房のご利用を外部に知られたくないご家庭もいらっしゃるため、交流を深めることは現状難しい事もある。 | 土曜日のイベントなので、外部の関わりがもっと持てるような企画を準備し、保護者様にもご理解いただいたうえでご参加いただくなどの工夫が必要。 |